

## 2007年の正会員の研究業績

### 浅野 信博

#### ●研究論文

「日本の企業における会計操作」(共著者:乙政正太・須田一幸)須田一幸・山本達司・乙政正太編『会計操作』ダイヤモンド社、2007年6月、59-74頁。

「会計操作と監査」(共著者:乙政正太)須田一幸・山本達司・乙政正太編『会計操作』ダイヤモンド社、2007年6月、75-84頁。

「会計操作の検出方法」(共著者:首藤昭信)須田一幸・山本達司・乙政正太編『会計操作』ダイヤモンド社、2007年6月、86-108頁。

#### ●ワーキングペーパー

“Exploring the Relationship between Strategy Change and Accounting Accruals,” (Coauthor: Atsushi Shiiba, Yutaro Murakami) OCU-GSB Working Paper, No. 200711, November 2007.

“Does Firm Strategy Have Systematic Effects in Predicting Future Cash Flows ?” (Coauthor: Atsushi Shiiba, Yutaro Murakami) OCU-GSB Working Paper, No. 200703, March 2007.

#### ●学会発表

「MBOの開示制度における法律上の問題点と経営者による裁量的開示行動」(椎葉淳氏と松中学氏との共同報告)ディスクロージャー研究学会第9回研究大会、大阪市立大学、大阪市、2007年11月17日。

“Does Firm Strategy Have Systematic Effects in Predicting Future Cash Flows ?” (Coauthor: Atsushi Shiiba, Yutaro Murakami) Journal of Contemporary Accounting and Economics Symposium ,Penang, Malaysia, January 6, 2007.

### 荒井 耕

#### ●著書

『医療原価計算:先駆的な英米医療界からの示唆』中央経済社、2007年2月。

#### ●研究論文

「医療から考察したサービス業の原価計算:目的別有用性に関する新見解」『会計』第171巻第2号、2007年2月、187-201頁。

「アメリカ病院界における部門別原価計算発達史」『経理研究』第50巻、2007年2月、247-255頁。

「中国における病院の経営管理の現状と課題:遼寧省の12病院に対するインタビュー調査から」『経営研究』第58巻第2号、2007年7月、105-128頁。

「検査領域における外部RVU値を活用した原価計算の適切性の検証：等価係数体系の低い病院間相似性」『産業経理』第67巻第3号、2007年10月、103-111頁

「医師所有経営制下の病院経営」富澤修身編、『グローバル競争下の都市ビジネスの高度化』大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書、2007年3月、56-59頁。

#### ●ワーキングペーパー

「現行診療報酬制度における手術種類区分の妥当性の検証：手術サービス単位の同質性確保の必要性」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200705、2007年5月。

「現行診療報酬制度における検査種類区分の妥当性の検証：検査サービス単位の同質性確保の必要性」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200706、2007年5月。

「手術領域における外部RVU値を活用した原価計算の適切性の検証：等価係数体系の低い病院間相似性」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200707、2007年5月。

「検査領域における外部RVU値を活用した原価計算の適切性の検証：等価係数体系の低い病院間相似性」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200708、2007年5月。

「手術領域における原価・価格関係の実証分析：RCC法の妥当性と採算性の検証」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200709、2007年5月。

「消費資源額と技術力評価額の一致度と価格設定における両者の考慮：経済合理思考と専門職評価思考のバランス」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパーシリーズ、No.200710、5月。

#### ●学会発表

「手術領域における原価・価格関係の実証分析：RCC法の妥当性と採算性の検証」日本原価計算研究学会第33回全国大会、慶應義塾大学、東京、2007年10月20日。

“The Power of Corporate Agency: Clinicians, Resources and Costing in Japan and the UK,” With Llewellyn, S. and Northcott, D., Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting 2007 Conference (5th), Hyatt Regency Auckland, NZ, 8-10th July 2007.

「DPC時代の医療経営に管理会計を活用する」日本予防医学リスクマネジメント学会第5回大会、大阪国際交流センター、大阪、2007年3月17日。

「医療改革という経営環境変化リスクに対応するための病院変革ツールとしてのバランスト・スコアカード」シンポジウム『病院組織における管理技術の革新とリスク・マネジメント—経営学の視点から』日本予防医学リスクマネジメント学会第5回大会、大阪国際交流センター、大阪、2007年3月17日。

#### ●その他

「参照原価制度下のNHS原価計算の展開」『第13回ヘルスリサーチフォーラム講演録』2007年3月、289-296頁。

「日本の医療界における原価計算の現状」瀋陽何氏眼科病院セミナー、何氏眼科本院、瀋陽、2007年2月3日。

「現行診療報酬制度における手術及び検査種類区分の妥当性の検証：原価償還目的及びその他諸目的への適切性の観点から」第18回ヘルスケア・マネジメント研究会、大阪市立大学医学部医療研修センター、大阪、2007年2月24日。

「地域連携BSCを中心とした地域医療マネジメントシステムの構築の必要性」高機能・地域中核病院研究会4月定例会、メルパルク大阪、大阪、2007年4月13日

「現行診療報酬制度における手術及び検査種類区分の妥当性の検証: サービス単位の同質性確保の必要性」大阪市立大学大学院経営学研究科会計講座研究会、大阪市立大学、大阪、2007年4月14日。

“Hospital Costing Practices in Japan” Seminar at School of Public Health Fudan University, Fudan University, Shanghai, 7th June 2007.

「医療原価計算: 日本の現状と英米からの示唆」会計検査院テクニカルセミナー、会計検査院講堂、東京、2007年6月21日。

「円卓討論: サービスの管理会計(座長: 小林啓考)」共同、『会計』第171巻第2号、2007年2月、271-309頁。

Essentials of Cost Accounting in Service Industries Inferred from Healthcare Sector, Japanese Accounting Forum, Vol. 15, 2007, p.12.

## 石井 真一

### ●研究論文

“Do Japanese firms use joint ventures to steal knowledge from their American partners? An examination of the evolution of Japanese-US joint ventures in Japan” (J.-F. Hennart氏との共著) Proceedings of EIBA (European International Business Academy) 33rd Annual Conference (Competitive paper sessions, “Preliminary analysis of Japanese-European joint venture dissolution patterns in Japan” (J.-F. Hennart氏との共著) Conference proceedings of MOPAN (14th International Conference on Multi-Organizational Partnerships, Alliances & Networks, 28th-29th June 2007), Jun-07.

“Evolution of American shareholding in American-Japanese joint ventures in Japan: Design, sample and preliminary results of the THH study” (J.-F. Hennart氏との共著) Osaka City University Business Review, No.18, May-07, pp. 1-26.

### ●学会発表

“Do Japanese firms use joint ventures to steal knowledge from their American partners? An examination of the evolution of Japanese-US joint ventures in Japan” (J.-F. Hennart氏との共著) EIBA (European International Business Academy) 33rd Annual Conference (Competitive paper sessions of Theory of “Preliminary analysis of Japanese-European joint venture dissolution patterns in Japan” (J.-F. Hennart氏との共著) 14th International Conference on MOPAN (Multi-Organizational Partnerships, Alliances & Networks) Katholieke Universiteit van Leuven, Leuven, Belgium, 28-Jun-07.

“Japanese partnership behavior in Japanese-European joint ventures in Japan” 日本経営学会関西支部英語セッション、関西学院大学、西宮市、2007年11月17日  
「日本企業の国際合弁行動—トロイの木馬仮説の批判的検討—」2008年度組織学会年次大会、福岡市、2007年10月14日。

「日本企業の国際合弁行動に関する実証研究: コア・コンピタンス論におけるトロイの木馬仮説の批判的検討」社会科学国際フェロシップ 新渡戸/木川田/牛場フェロー 在外研究報告会、国際文化会館、東京都港区、2007年4月3日。

## 石川 博行

### ●著書

『配当政策の実証分析』中央経済社、2007年6月、397頁(2007年度日経・経済図書文化賞受賞)。

### ●研究論文

「会計操作に対する株価反応」共著、須田一幸・山本達司・乙政正太(編著)『会計操作—その実態と識別法、株価への影響』ダイヤモンド社、2007年6月、174-186頁。  
「DDMとRIMの実証的な優劣比較の有効性について」日本会計研究学会特別委員会『会計情報を活用した企業評価に関する総合的研究』中間報告、2007年9月、181-204頁。

#### ●学会発表

「企業情報を活用した企業評価に関する総合的研究(日本会計研究学会特別委員会報告)」共同(代表報告者:桜井久勝)日本会計研究学会第66回全国大会、松山大学、松山市、2007年9月1日。

#### ●招待講演

「実証会計学の立場からみたわが国企業の配当政策」第24期グローバル財務戦略研究会第8回例会、経団連会館、東京都、2007年9月11日。

「配当政策と株価形成—会計ベースの企業評価モデルに依拠して—」日本証券アナリスト協会関西地区特別セミナー・証券分析理論の研究会(第5回)大阪証券取引所、大阪市、2007年11月8日。

「配当政策の実証分析—コラボレーション効果の観点から—」中央大学アカウンティング・フォーラム、中央大学、東京都、2007年11月23日。

#### ●コメンテータ

「日本企業の配当政策・自社株買い—サーベイ・データによる検証—」(報告者:花枝英樹氏・芹田敏夫氏)に対するコメント、日本経営財務研究学会第31回全国大会、立命館大学、草津市、2007年10月7日。

#### ●辞典の項目執筆

「株式評価モデル」「割引超過利益モデル」「割引キャッシュ・フロー・モデル」「割引配当モデル」「連単倍率」共著、神戸大学会計学研究室(編)『会計学辞典(第6版)』同文館出版、2007年8月。

### 稲葉 祐之

#### ●研究論文

Joint-solving of complex social problems: A preliminary case study. Osaka City University Business Review (The Graduate School of Business, Osaka City University) Vol.18, 2007年4月, pp. 27-48.

「江戸期大坂にみる大阪モデル:歴史上の都市ビジネス高度化事例」富澤修身編、『大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書 グローバル競争下の都市ビジネスの高度化—大阪モデルの開発—』2007年3月、157-176頁。

#### ●学会発表

「ソーシャル・イノベーション研究の可能性:ソーシャル・イノベーションが組織研究にもたらすもの」稲葉祐之(研究代表者), 大平修司, 大室悦賀, 唐木宏一, 神原理, 土肥将敦, 京都産業大学、京都市、2007年6月2日。

「企業家、イノベーションと都市ビジネスの高度化:江戸期大坂の事例」『2007年度企業家研究フォーラム年次大会』大阪大学中之島センター、大阪市、2007年7月7日。

## 太田 雅晴

### ●研究論文

「次世代生産システムのフレームワーク構築に向けての課題」『オフィスオートメーション』第27巻4号、2007年5月、pp.4-14。

Innovation Capabilities of Japanese Enterprise, Proceeding of 2007 International Conference on Knowledge-Based economy & Global Management, Dec. 6-7, 2007, Southern Taiwan University, Taiwan, 2007年12月, pp.14-23.

### ●学会報告

「日本企業のイノベーションケイパビリティ」日本経営学会関西支部549回例会、近畿大学、東大阪市、2007年5月19日。

### ●その他

「混迷の時代に求められる組織能力と企業イノベーション」『KPC News』(財)関西生産性本部発刊、第34巻416号、2007年3月、pp.2-3。

『イノベーションマネジメントに関する調査報告書』(OCU、GSBリサーチシリーズ No.9)太田雅晴編著、大阪市立大学大学院経営学研究科発行、2007年3月、275 pages。

## 岡野 浩

### ●研究論文

“Activity-based Costing: How Far Have We Come Internationally?,” (Al Bhimaniほかとの共著) *Cost Management*, Vol.21, No.3, May/June, 2007.

「パブリックセクターにおける戦略経営・総合的業務革新：大阪モデルの構築」(向山敦夫・荒井耕・ト志強との共著)『重点研究最終報告書』大阪市立大学経営学研究科編、所収) 2007年3月。

### ●学会報告

「戦前期化学工業企業の財務報告実務に対する「財務諸表準則」の影響：福岡酸素株式会社の事例」(野口昌良・中嶋道靖との共著)「日本会計史学会スタディグループ研究報告」日本会計史学会第26回全国大会2007年9月22日・23日、神戸大学、神戸市。

“Culture and Business from the Neo-Institutionalism’s Perspective: Innovation & Change of Calculative Spaces,” Keynote Speech, *International Conference of Value Based Management*, University of International Business & Economics, 13-14 May 2007, Beijing, China.

“Management Accounting History in Japanese Companies from Social & Institutional Perspectives,” Keynote Speech, The 6<sup>th</sup> Accounting History Academic Conference, Accounting Society of China (ASC), October 26-28 2007, Shaoxing, China.

## 加藤 司

### ●研究論文

「大阪の食ビジネス-ファッションとの比較から-」『都市問題研究報告書』大阪市立大学大学院経営学研究科

## 狩俣 正雄

### ●研究論文

「仕事と意味実現」『経営研究』第58巻第1号、2007年5月、47-64頁。

「障害のある人の就労支援」『経営研究』第58巻第3号、2007年11月、35-53頁。

## 川村 尚也

### ●研究論文

「Managing Networks of Communities of Practice for Organizational Knowledge Creation –A Knowledge Management Imperative in the era of Globalization–」  
Annales des Télécommunications (Annals of Telecommunications) Volume 62, No.7-8, 2007年7-8月, 734-752頁。

「伝統芸能組織のマネジメント研究への活動理論アプローチ—人形浄瑠璃における後継者育成と鑑賞者開発の事例から—」(高島知佐子との共著)第58巻第2号、2007年7月、81-103頁。

### ●学会発表

「伝統芸能における創造と継承—活動理論と制度論の視点から—」日本情報経営学会第55回全国大会統一論題報告(招待講演)愛知学院大学、名古屋市、2007年11月3日、予稿集19-22頁。

「Managing Traditional Performing Arts Organizations – An Activity-theoretical Analysis of Traditional Puppet Play Companies in Japan –」(Coauthor: Chisako Takashima) Universitat de València, Valencia, Spain, 2007年7月9日, 13 pages in Proceedings CD-ROM.

「Creating Knowledge through Public Private Partnership mediated by the Social Networking Service supported by Municipal Government」(Coauthor: Hiroshi Togo and Kosei Enomomo) The 23rd European Group for Organizational Studies (EGOS) Colloquium, Sub-theme 35: Doing the ‘two-step’: New forms of

## 清田 匡

### ●研究論文

「大阪の経済と地域金融機関の役割」『信金中金月報』第6巻第3号、2007年2月、54-65頁。

座談会記録「地域の自立と地域金融機関の役割」(横浜市立大学・藤野次雄氏、北九州大学・木村温人氏、小樽商科大学・齋藤一朗氏、愛知大学・打田委千弘氏と)『信金中金月報』第6巻第3号、2007年2月、6-20頁。

## 小林 哲

### ●ワーキングペーパー

「地域ブランドと食文化資産—“食い倒れ”の街「大阪」を事例として—」OCU-GSB Working Paper、No.200704、2007年4月1日。

### ●学会発表

Hierarchical Value-Structure Mapping via Focus Group Laddering: G\_Lad, Nobuto IMAMURA, Akihiro INOUE, Tetsu KOBAYASHI & Haruhiko UMEMOTO, The 36th EMAC Conference, Reykjavik University, Reykjavik, Iceland, 2007.5.22-25.

## 坂上 学

### ●著書

『会計人のためのXBRL入門』同文館、2007年2月、188頁。

### ●研究論文

「XBRLと会計ディスクロージャー」河崎照行編著、『電子情報開示のフロンティア』第8章所収、中央経済社、2007年8月、105-120頁。

「『質問票調査』の分析結果—テキストマイニング分析」中野常男編著、『複式簿記の構造と機能—過去・現在・未来—』第3章所収、同文館、2007年11月、81-101頁。

「未来簿記—XBRLからみた複式簿記の機能と構造」『複式簿記の構造と機能—過去・現在・未来—』第6章所収、同文館、2007年11月、285-300頁。

「XBRLによる事象会計システムの構築」『産業経理』第66巻第4号、2007年1月、95-103頁。

「KOSDAQ 市場におけるボラントリー・ディスクロージャーの有用性—XBRLによる財務情報開示—」(朴在源との共著)『會計』第171巻第4号、2007年4月、105-116頁。

「複式簿記の記録機能と財務諸表作成機能との融合—XBRL GLによる実現—」『日本簿記学会年報』第22号、2007年7月、124-130頁。

「XBRLにおける財務報告データモデリング」『企業会計』第59巻第7号、2007年7月。

### ●学会発表

「ネットワーク社会における税務会計の諸問題」特別委委員会報告、日本税務会計研究学会全国大会、近畿大学、東大阪市、2007年10月6日。

### ●その他

「学会ルポ 第5回APIRAコンファレンス」『企業会計』第59巻第12号、2007年12月、135頁。

「日本簿記学会第23回関西西部会記」『日本簿記学会ニュース』第43号、2007年7月、2頁。

## 下崎 千代子

### ●編著書

『少子化時代の多様で柔軟な働き方の創出—ワークライフバランス実現のテレワーク—』学文社、2007年9月、共同編者、小島敏宏。

### ●学会発表

「ワークライフバランス実現に向けた柔軟な働き方—雇用形態の多様化から勤務形態の多様化へ—」日本経営学会、第81回大会全国大会、追手門学院大学、茨木市、2007年9月8日。

### ●その他

『平成18年度多様な働き方に関するアンケート調査結果報告書』共著、日本労働組合総連合会兵庫県連合会・兵庫県経営者協会・兵庫県地域労使就職支援機構、平成19年3月。

## 鈴木 洋太郎

### ●その他

『域内取引・販路拡大についての調査報告書』(共編著)大阪市立大学大学院経営学研究科・大阪商工会議所中小企業振興部、2007年3月、62ページ。

「グローバル競争下における大阪の産業集積と資材の域内調達」『大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書:グローバル競争下の都市ビジネスの高度化』大阪市立大学大学院経営学研究科、2007年3月、109-114ページ。

## 高田 輝子

### ●学会発表

Robust estimation of latent variable models with application to stochastic volatility models, 2007 Far Eastern Meeting of the Econometric Society, International Howard Plaza, Taipei, Taipei, Taiwan, July 12, 2007.

## 高橋 信弘

### ●研究論文

「企業間の共同開発の新しいモデル」日本中小企業学会編、『中小企業のライフサイクル』同友館、2007年8月、84-97頁。

「企業間の共同開発による新製品開発」大阪市立大学大学院経営学研究科編、『グローバル競争下の都市ビジネスの高度化 ー大阪モデルの開発ー』大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書、2007年3月、105-8頁。

### ●学会発表

“Offshore Outsourcing in the Japanese Software Industry”(共著)日本中小企業学会春季西部部会、流通科学大学、神戸市、2007年5月12日。

“Offshore Software Outsourcing in Japan”(共著)日本国際経済学会全国大会、早稲田大学、新宿区、2007年10月8日。

“Offshoring of Software Development from Japan to China”(共著) The 4th SMEs in A Global Economy Conference 2007, Concorde Hotel Sham Alam, Sham Alam, Malaysia, July 10, 2007.

“Offshoring of Software Development from Japan to China”(共著) The 15th Annual Conference on PBFEM (Pacific Basin Finance, Economics, Accounting, and Management), Equatorial Hotel, Ho Chi Minh City, Vietnam, July 21, 2007.

“Offshoring of Software Development from Japan to China”(共著) American Conference on Information Systems 2007, Keystone Conference Center, Keystone, Colorado, USA, Aug 11, 2007.

“Offshoring of Software Development from Japan to China”(共著) 6th International Conference of the Japan Economic Policy Association, Hosei University, Tokyo, Dec 8, 2007.



“Offshore Development of Software in Japan”(共著) Taichung International Seminar, National Taichung Institute of Technology, Taichung, Taiwan, March 30, 2007.

「企業間の共同開発の大阪モデル」国際シンポジウム 東アジアの産業発展と大阪の中小企業の明日、大阪商工会議所、大阪市、2007年11月20日。

“Offshoring of software development from Japan to China –From Japanese perspective–”(共著)招待講演、East China University of Science and Technology, Shanghai, China, June 1, 2007.

## 田村 晃二

### ●ワーキングペーパー

「インターネット販売の分析視点」大阪市立大学大学院経営学研究科ワーキングペーパー、No.200712、2007年12月、30ページ。

## 翟 林瑜

### ●研究論文

「上市公司的財務政策与績效」(中国語)(日本語意味:「上場企業の財務政策とパフォーマンス」)北京大学中国经济研究中心『経済学(季刊)』第6巻第1号、2007年1月、655-674頁。

### ●学会発表

「日本金融体制的变迁对中国的启示」(中国語)(日本語意味:「中国に対する日本金融システムの変遷の示唆」)上海フォーラム、上海、2007年5月25日。

## 富澤 修身

### ●研究論文

「三越120年と東京のファッション・ビジネス」経営研究、第58巻第3号、2007年11月、1~33ページ。

### ●その他

「IV ヒアリング調査結果」(富澤修身・鈴木洋太郎・中瀬哲史編『域内取引・販路拡大についての調査報告書』大阪市立大学大学院経営学研究科・大阪商工会議所中小企業振興部発行)32~38ページ。

講演「日本繊維産業の現状と展望」(2007年8月28日、韓国テグ市、韓国染色技術研究所にて)。

基調報告「大阪の中小企業 明日への道をさぐる」(大阪市立大学大学院経営学研究科・大阪商工会議所企業経営支援委員会共催シンポジウム『大阪の中小企業 明日への道』2007年3月2日、大阪商工会議所にて)。

基調報告「グローバル競争下の大阪の中小企業明日への道」(大阪市立大学大学院 経営学研究科・大阪商工会議所企業経営支援委員会共催シンポジウム『東アジアの産業発展と大阪の中小企業の明日』2007年11月20日、大阪商工会議所にて)。

基調講演「『大阪ファッション産業の新生ビジョン』をレビューする」(大阪市立大学大学院経営学研究科・関西ファッション連合共催ファッション・ビジネス国際シンポジウムin OSAKA『大阪と上海から大阪のファッション・ビジネスの明日を問う』2007年12月12日、大織健保会館にて)。

重点研究プロジェクト代表・富澤修身編『大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書 グローバル競争下の都市ビジネスの高度化』(大阪市立大学大学院経営学研究科発行、2007年3月30日)、1~176ページ。

都市問題研究代表・富澤修身編『大阪市立大学都市問題研究プロジェクト平成18年度 報告書 都市におけるファッション産業と食文化産業の魅力形成に関する基礎的研究』（大阪市立大学大学院経営学研究科発行、2007年3月30日）1～110ページ。  
ポスターセッション「三越120年と東京のファッション・ビジネス」『URPポスターセッション2007』（2007年11月3日、大阪市立大学都市研究プラザにて）。

### 中瀬 哲史

#### ●研究論文

「中小零細企業の一生―東大阪産業集積地域における中小企業の誕生、発展、消滅」経営研究、第58巻第1号、2007年5月、27-46頁。

### 西村 弘

#### ●著書

『脱クルマ社会の交通政策―移動の自由から交通の自由へ』ミネルヴァ書房、2007年4月、A5、319頁。

#### ●研究論文

「ソウルにおけるバス政策改編の効果と課題」『運輸と経済』第67巻第1号、2007年1月、42-50頁。

#### ●学会発表

「移動の自由は制約しうるか―『脱クルマ社会の交通政策』をめぐって」日本交通学会関西支部会、中央電気倶楽部、大阪市、2007年6月1日。

「規制改革の到達点：規制改革評価に問われているもの」公益事業学会全国大会、拓殖大学、東京、2007年6月9日。

### 畑 明郎

#### ●著書

『公害湮滅の構造と環境問題』上園昌武との共編著、世界思想社、2007年4月、274頁。

#### ●研究論文

築地市場の移転先・東京ガス豊洲工場跡地の問題点『環境と公害』第37巻第1号、2007年7月、57-62頁。

中国の環境汚染問題、日本科学者会議編、『環境展望vol.5』実教出版、2007年10月、173-193頁。

#### ●学会発表

Asian Mining Pollution and the Japanese Experience, International Conference on Legislation for Prevention and Control of Soil Contamination, Lanzhou University, China, Lanzhou, August 13 2007.

日本の金属鉱山の環境破壊―イタイイタイ病の事例、中国広東省生態環境・土壤研究所特別講演会、中国広東省広州市、2007年3月28日。

琵琶湖の環境問題、中国湖南省湖南師範大学特別講演会、中国湖南省長沙市、2007年8月28日。

日本の土壤汚染問題、中国湖南省湖南農業大学特別講演会、同上、2007年8月31日。

築地市場の移転先・東京ガス豊洲工場跡地の問題点、日本環境学会第33回研究発表会シンポジウム、東京農工大学、府中市、2007年7月7日。

中国広東省と湖南省の土壤汚染、同上、同上、同上、2007年7月8日。

東京ガス豊洲工場跡地の土壤汚染調査と対策の問題点、日本環境学会シンポジウム、国立がんセンター、東京都中央区、2007年2月11日。

公害湮滅の構造と環境問題、第18回久保医療文化賞受賞記念講演会、東京八重洲ホール、同上、2007年2月25日。

公害なんかないというけれど、それは本当か?、07久保医療文化研究所シンポジウム、北区赤羽会館、東京都北区、2007年10月21日。

中国の環境問題、北海道教育大学函館校特別講義、北海道函館市、2007年6月26日。

土壤汚染関連法の課題と今後の方向、エコケミストリー研究会10周年記念特別シンポジウム、全水道会館、東京都文京区、2007年4月25日。

土壤汚染この5年間の経緯とその科学性について、第13回地質汚染調査浄化シンポジウム、カメラプラザ、東京都江東区、2007年12月22日。

土地の安全・安心は守られているかー土壤汚染対策法4年を経過して、エコロジー研究会・土壤研究会セミナー、おおさかATCグリーンエコプラザ、大阪市、2007年7月5日。

東京・築地市場の移転先、豊洲の土壤・地下水汚染問題、第22回水・土壤汚染対策研究部会セミナー、おおさかATCグリーンエコプラザ、大阪市、2007年8月

東京築地市場移転予定先・豊洲の土壤汚染問題、エコロジー研究会・土壤研究会セミナー、大阪市、2007年12月21日。

拡大する土壤・地下水汚染、フォーラム小鳥が丘団地土壤汚染問題、上道公民館、岡山市、2007年10月28日。

私たちの生活と重金属汚染、川西市生活学習会、パレットかわにし、兵庫県川西市、2007年12月4日。

#### ●その他

環境汚染と人体影響、朝日新聞社、『知恵蔵2007』2007年1月、429-434頁。

科学ニュース：築地市場の豊洲移転問題、岩波書店『科学』、第77巻第11号、2007年11月、1107-1108頁。

築地市場が土壤汚染された東京ガスの工場跡地へ移転、『週刊金曜日』第640号、2007年2月2日、58-59頁。

東京都追加調査と専門家会議の問題点、日本消費者連盟『消費者レポート』第1380号、2007年9月、4-5頁。

東京都追加調査結果と詳細調査計画の問題点、同上、同上、第1387号、2007年12月、4-5頁。

築地市場移転予定地・東京ガス豊洲工場跡地の土壤汚染(1)、日本環境法律家連盟『環境と正義』第102号、2007年7月、4-5頁。

築地市場移転予定地・東京ガス豊洲工場跡地の土壤汚染(2)、日本環境法律家連盟『環境と正義』第103号、2007年10月、4-5頁。

中国湖南省土壤汚染調査速報、同上、同上、第105号、2007年12月、10-12頁。

中国広東省土壤汚染調査速報、びわ湖の水と環境を守る会、『びわ湖通信』第146号、2007年5月、12-17頁。

中国湖南省土壤汚染調査速報、同上、同上、第150号、2007年9月、4-7頁。

中国の環境問題、関西経済同友会『サイバー適塾クイック』全6回発信、2007年4～9月。

都知事選と築地市場移転問題、『TBSイブニングファイブ』インタビュー出演、2007年3月7日。

都知事選と築地市場移転問題、『テレビ朝日ニュース』インタビュー出演、2007年3月7日。

都知事選と築地市場移転問題、『TBSニュース23』インタビュー出演、2007年3月16日。

中国広東省「がんの村」研究者ら来日調査『北日本放送ニュース』同上、2007年8月5日。

築地市場移転問題『J-WAVEラジオ』生電話インタビュー、2007年10月15日。  
湖国の人たちオピニオン'07畑明郎さん『毎日新聞』インタビュー記事、2007年6月5日。  
シリーズ公害「がんの村で」中国・広東省からの報告、同上、同上、2007年9月26日。  
「ガス工場跡地、土壌汚染」築地の豊洲移転NO、『東京新聞』同上、2007年3月5日。  
築地移転先は汚染地域：再汚染のおそれ、完全浄化無理『赤旗』同上、2007年2月4日。  
築地市場移転先の土壌汚染：東京都再調査の問題点、同上、寄稿論文、2007年11月22日。  
私の視点：RDの有害物汚染は遮水壁で解決しない、『滋賀民報』寄稿論文、2007年12月9日。

## 藤井 輝明

### ●研究論文

「試験設計の統計的考察 -五分位分析図による判別力の分析を中心に-」『経営研究』第58巻第2号、2007年7月、69-79頁。

### ●学会発表

「学力試験設計と被験者のリスク管理行動」経済統計学会関西支部5月例会、大阪経済大学、大阪市、2007年5月19日。

「統計改革と統計法改正」経済統計学会関西支部11月例会、大阪経済大学、大阪市、2007年11月17日。

## 本多 哲夫

### ●研究論文

Local Technology Centers and the Regional Innovation System in Japan, *Osaka City University Business Review*, No.18, 2007, pp.13-26.

### ●学会発表

「公設試験研究機関の現状と課題」日本中小企業学会西部部会、兵庫県立大学、神戸市、2007年1月27日。

「公設試験研究機関と地域イノベーションシステム」日本中小企業学会全国大会、中京大学、名古屋市、2007年10月6日。

### ●その他

「大阪市における中小製造業の革新—大阪市の都市再生に向けて—」大阪市立大学大学院経営学研究科『大阪市立大学重点研究プロジェクト平成18年度報告書 グローバル競争下の都市ビジネスの高度化—大阪モデルの開発—』、2007年3月、96-104ページ。

「大阪の中小製造業のイノベーションのあり方」大阪市立大学大学院経営学研究科・大阪商工会議所企業経営支援委員会共済国際シンポジウム（東アジアの産業発展と大阪の中小企業の明日）、大阪商工会議所、大阪市、2007年11月20日。

## 向山 敦夫

### ●学会発表

Development and Background of Social and Environmental Reporting in Japan, The Fifth Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting (APIRA) Conference, The Hyatt Regency Auckland, Auckland (New Zealand), July 10 2007.

## **安井 國雄**

### ●研究論文

「第一次大戦後における三大工業地域の工業構造の変化」『経営研究』第58巻第2号、2007年7月、23頁—67頁。

## **吉川 吉衛**

### ●学会報告

「コーポレートガバナンスが問われる時代の内部統制とリスクマネジメント」、単、日本経営学会関西西部会1月例会、大阪市立大学、2008年1月12日。

### ●その他

「CSRと企業リスクマネジメント」、大阪市立大学文化交流センター講座、連続講義：今、求められているCSR（企業の社会的責任）経営、第1回、大阪市立大学、2007年6月11日。

「実践 我が国の官民が果たすべき社会的責任」、単、国土交通省平成19年度 西日本地方部長級研修、2007年12月3日。

「企業とリスクマネジメント」、単、経営倫理実践研究センターCSR関西研究部会第3年度第4回講演、大阪府商工会館、2008年1月16日。